

請願第10号

陸上自衛隊新屋演習場への陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア） 配備計画反対に関する決議について

令和2年2月6日受理

秋田市にある陸上自衛隊新屋演習場への陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）配備計画の賛否については、これまで秋田市議会でも議論され、そのたびに調査結果が出ていないなどの理由から、結論が先送りされてきました。

しかし、防衛省がどんなに調査を行っても、新屋演習場が住宅密集地に隣接しているという事実は変わらず、一たん配備されれば、その後、何十年も不安と隣り合わせに暮らしていかなければなりません。

これまで防衛省は、丁寧な説明を行うとしながら、説明会で出された住民の疑問や不安に対し、誠実にこたえようとしてきませんでした。その上、調査報告書の内容に重大な誤りがあったにもかかわらず、都合のよい理屈で新屋演習場のみを適地とするなど、「新屋ありき」で計画を強引に進めようとする態度に、不信感は募るばかりです。

さきの参議院議員選挙の結果や、NHKの出口調査、秋田魁新報社による世論調査でも明らかなおおりに、市民や県民の6割以上が新屋演習場へのイージス・アショアの配備に反対しているのです。また、住民組織である新屋勝平地区振興会を初め、6つの振興会・町内会が反対を表明しています。住民の代弁者である議会は、そうした住民の声を重く受けとめ、決定に反映すべきです。

つきましては、秋田市議会として、陸上自衛隊新屋演習場への陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）配備計画反対に関する決議をしてくださるようお願いいたします。

陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）の
陸上自衛隊新屋演習場への配備計画の撤回に関する決議について

令和2年2月13日受理

陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）の配備をめぐることは、昨秋、菅官房長官や河野防衛大臣から住宅地との距離も考慮するといった発言があり、秋田市新屋勝平地区への配備を危惧していた県民に安堵感が広がりつつあります。

しかし、その一方で、河野防衛大臣は、ハワイのカウアイ島にあるイージス・アショア実験施設を視察した際に、近傍に軍人家族用の保育施設があることに言及し、安全性が高いといった発言もしています。これは、住宅地との距離は考慮するが、近接しているから危険ということにはならないとも解される言い回しです。再調査の結果において、やはり陸上自衛隊新屋演習場以外に適地はないとする選択肢を政府が温存しているようにも受けとめられます。

また、政府は、配備理由を北朝鮮のミサイル攻撃から国民の生命・財産を守るためとしておりますが、米国を代表する民間のシンクタンクの戦略国際問題研究所において、日本が配備予定のイージス・アショア2基に関連し、太平洋の盾、巨大なイージス駆逐艦としての日本といった論文を発表しており、配備の目的は米国の本土防衛にあることを隠していません。これでは、不幸にして米朝ミサイル戦争の勃発といった事態になれば、真っ先にねらわれるのは日本のイージス・アショア配備地ということになります。このような危険な軍事施設を、よりによって県都に、しかも住宅が密集する新屋勝平地区に配備する計画自体が無謀であると言わなければなりません。

本年1月31日には、河野防衛大臣と県知事、秋田市長が直接会談し、県民・市民の代表として陸上自衛隊新屋演習場への配備は無理と伝えたとの報道がありました。秋田市議会も変化しつつあるようですが、最近のさまざまな情勢の変化を踏まえ、再調査結果を待って判断するのではなく、新屋勝平地区への配備は認めないとする声をオール秋田の意思に高めるため、秋田市議会における態度を決定していただくよう求める次第です。

つきましては、秋田市議会として、陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）の陸上自衛隊新屋演習場への配備計画の撤回に関する決議をしてくださるようお願いします。

陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）の
陸上自衛隊新屋演習場への配備計画の撤回に関する決議について

令和2年2月13日受理

陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）の配備をめぐることは、昨秋、菅官房長官や河野防衛大臣から住宅地との距離も考慮するといった発言があり、秋田市新屋勝平地区への配備を危惧していた県民に安堵感が広がりつつあります。

しかし、その一方で、河野防衛大臣は、ハワイのカウアイ島にあるイージス・アショア実験施設を視察した際に、近傍に軍人家族用の保育施設があることに言及し、安全性が高いといった発言もしています。これは、住宅地との距離は考慮するが、近接しているから危険ということにはならないとも解される言い回しです。再調査の結果において、やはり陸上自衛隊新屋演習場以外に適地はないとする選択肢を政府が温存しているようにも受けとめられます。

また、政府は、配備理由を北朝鮮のミサイル攻撃から国民の生命・財産を守るためとしておりますが、米国を代表する民間のシンクタンクの戦略国際問題研究所において、日本が配備予定のイージス・アショア2基に関連し、太平洋の盾、巨大なイージス駆逐艦としての日本といった論文を発表しており、配備の目的は米国の本土防衛にあることを隠していません。これでは、不幸にして米朝ミサイル戦争の勃発といった事態になれば、真っ先にねらわれるのは日本のイージス・アショア配備地ということになります。このような危険な軍事施設を、よりによって県都に、しかも住宅が密集する新屋勝平地区に配備する計画自体が無謀であると言わなければなりません。

本年1月31日には、河野防衛大臣と県知事、秋田市長が直接会談し、県民・市民の代表として陸上自衛隊新屋演習場への配備は無理と伝えたとの報道がありました。秋田市議会も変化しつつあるようですが、最近のさまざまな情勢の変化を踏まえ、再調査結果を待って判断するのではなく、新屋勝平地区への配備は認めないとする声をオール秋田の意思に高めるため、秋田市議会における態度を決定していただくよう求める次第です。

つきましては、秋田市議会として、陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）の陸上自衛隊新屋演習場への配備計画の撤回に関する決議をしてくださるようお願いします。